

子どもと関わる大人の現場ですぐに役立つ 研修会

特定非営利活動法人 みやぎ・せんだい子どもの丘
〒981-0931 宮城県仙台市青葉区北山 1-5-22

助成事業の概要

<実施目的>

専門的な知識を学び理解を深めるだけでなく、もっと根本的な専門職としての理念や子ども観についてしっかり見つめ見識を高めることを目標とします。子どもの現場で働く職員が夢を持ち前向きになれるように全国的に注目されるような講師陣を招聘し、学ぶ楽しみ、子どもと関わることの面白さ、誇りを持って働くモチベーションを奮い立たせる研修会を開催します。

<対 象>

保育所、児童館、放課後児童クラブ等 子どもと関わる施設・事業従事者全般

<日時等>

(1)6月24日(土) 14:00～15:30 講師：ケロポンス

演題：『ケロポンスとあそぼう！』

会場：仙台幼児保育専門学校 大ホール

(2)9月3日(日) 13:30～16:00 講師：汐見稔幸(東京大学名誉教授、前日本保育学会会長)

演題：『いきいき保育研修会“古い保育”から抜け出したい』

会場：仙台幼児保育専門学校 大ホール

(3)11月25日(土) 15:30～17:30 講師：神谷明宏(聖徳大学准教授、玩具福祉学会副理事長)

演題：『小学生とあそび～目的と構成で変わる関わり方/レクゲーム実践～』

会場：ベネシアンホテル 白石蔵王 ローズルーム

事業の成果

(1)6月24日(土) 14:00～15:30 講師：ケロポンス

⇒参加者数：108名(保育所、幼稚園、児童館、放課後児童クラブ等の職員、地域の方々)

保育業界では知らない人はいないケロポンスをお招きしました。代表曲の「エビカニクス」などのダンス、ふれあいあそびうただけでなく、増田裕子さんのパネルシアターなど現場ではおなじみの児童文化財の紹介、活用について実践的に学ぶ機会を設けることができました。当日は同じ事務所の福田りゅうそうさんにも御登壇頂き、様々なあそびうたと一緒に披露頂きました。三人の軽妙なトークに参加者からは終始笑い声が絶えず、遊びネタのポイントを話している時はメモを取り真剣に話を聴く姿が見られ、メリハリのある研修会となりました。コロナも収まりを見せ、アタッチメントの重要性が再度注目されるようになりましたが、声を出しながら触れ合い、学び合う研修は非常に満足いく内容でした。

(2)9月3日(日) 13:30～16:00 講師：汐見稔幸(東京大学名誉教授、前日本保育学会会長)

⇒参加者数：90名(保育所、幼稚園、児童館、放課後児童クラブ等の職員および学生)

当初予定していた企画内容を拡充し、当法人副理事長および在仙の遊びネタ作家の講演を加え、いきいき保育研修会として実施しました。講師の汐見氏と副理事長の対談という形で進行し、保育現場の今について様々な実践例、これからめざすべき方向性などについてお話頂きました。子ども

たちの自己選択、自己決定できる環境、主体性を重視した関わりが大切であること、地域を巻き込み保育環境を構築することの重要性などをお話頂きました。時代の変革が進む現代において幼児教育、保育が担う役割の大きさ、現場で働く職員の視点、考え方が子どもの未来に大きな影響を及ぼすことについて焦点をあて、分かりやすく、端的に、現場職員としての在り方について改めて考えさせられる内容のお話を聴くことができました。

(3) 11月25日(土) 15:30～17:30 講師：神谷明宏(聖徳大学准教授、玩具福祉学会副理事長)
⇒参加者数：38名(児童館職員、放課後児童クラブ職員、保育園、幼稚園職員等)

長年、野外教育活動の現場に立ち、自然体験、レクリエーション活動、グループワークをご専門にされている神谷氏に、体験活動の重要性に関する講話、現場ですぐに使えるレクリエーションゲームの実技を教えてくださいました。子ども期に多様な体験を行うことが、その後の生きる力に結び付くこと、コロナ禍で体験活動が減ってしまっている今だからこそ意識的にそういう仕掛けをしていく必要がある、などのお話を頂きました。また、レクリエーションゲームはじゃんけんなど簡単なルールであそべるゲームを中心に、個人から小集団、大きな集団へと遊びが展開し、協力し仲間づくりをしていく仕組みなど、説明を交えながら楽しく体験することができました。

・各回の事業報告を団体 Facebook に投稿し、開催内容について広く発信しました。

■ 今後の展開

「子どもの現場ですぐに役立つ研修会」というタイトルですが、単純にスキルや知識を深める内容ではなく、もっと根本的な、子どもと関わる業種をめざすきっかけを再確認できるような、前向きな研修会を実施することができました。コロナが5類に移行し、様々な体験活動が出来ない状態で数年過ごした子どもたちへ今からしてあげられることは何か、汐見氏、神谷氏の講演の中にあつた「子ども期の体験の重要性」それを提供できる環境づくりこそが、子どもの現場職員に求められていること、という話を受け、より実践的な体験を支援できる内容の研修会を開催したいと考えております。

■ 成果の広報・公表

< 広報 >

・チラシを(1)1,000枚、(2)1,000枚、(3)1,000枚の3,000枚を印刷し、特に仙台市を中心に宮城県内の児童館、保育園、幼稚園、放課後児童クラブなど子どもと関わる現場に配付しました。(当団体が運営する20カ所以上の施設、事業所含む)

< 公表 >